



文子

○首巻のうさぎの顔を背に廻し
○二十日まだ巻きぐせ直らぬ初暦
朝ぼらけ寒の満月ふんわりと

農子

マフラーの結びの粋なジイジかな
友と来た温泉宿や寒見舞
自給率愁う恩師の年賀状

初江

○寒見舞帰りにもらう葱白菜
○姑よりの安否メールは「うめさいた」
自肅の街青いマフラーミラノ巻

弘

○カレーしか作れぬ男小正月
○まだ温き卵を貰う寒見舞
青春や手編みセーター呉れし人



夕子

○一升瓶下げて漢や寒見舞
○特売の同じマフラー席隣る
ブランドのマフラーさりげなく見せて

富子

○彩いろのない高速バスや冬ざるる
寒見舞かける言葉を捜しつつ
マフラーより七歳の君笑温えみぬくし

千代

○公園の蛇口のしづく春隣
とりどりのマフラー朝の駐輪場
帰国なき友へ四つ葉の寒見舞

味元 昭次 作品

師は白寿弟子は米寿の寒見舞
寒見舞末尾にミケによろしくと
数学は苦手マフラー靡かせて

美和

○検診の一つ気がかり寒の雨
寒の雨バスのワイパー泣いてをり
てきばきと厨の仕事ちゃんちゃんこ

郁子

○御笑いの切符届きぬ寒見舞
長電話認知予防の老いの冬
なずながゆ湯気の向こうに母の居て

酔花

○付け睫はずして食べている茶漬け
参道をマフラー柄の朝の猫
長話屋台のおでんしみている

えり

実南天城下の市に待機せり
寒見舞大歩危小歩危二億年
川瀬のマフラー欲しや二十万



★次回市民句会
【開催日時】
令和四年二月二十三日(水)
午後一時十五分〜午後四時(予定)
【場所】
オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます